

SHADAI STALLION STATION for 2025

2024年 ジャパンC-G1
photo: J.Fukuda



New for 2025 | 新種牡馬

ドウデュース DO DEUCE (JPN)

Sire: ハーツクライ Dam: *ダストアンドダイヤモンド BMS: Vindication

Fee 1,000万円

受胎確認後支払、フリーリターン特約対象馬



2021年 東京優駿(日本ダービー)・G1
photo: S.Naka

New for 2025 | 新種牡馬

シャフリヤール SHAFRIR (JPN)

Sire: ディープインパクト Dam: *ドバイマジェスティ BMS: Essence of Dubai

Fee 250万円

受胎確認後支払、フリーリターン特約対象馬

社台スタリオンステーション

〒059-1432 北海道勇払郡安平町早来源275
tel.0145(22)4581 fax.0145(22)4583

<https://shadai-ss.com>

https://www.instagram.com/shadai_stallions

<https://www.facebook.com/shadaistallionstation>

ディープインパクト

サンデーサイレンス

Halo
Wishing Well

ウインドインハーヘア

Alzao
Burghclere

ドバイマジェスティ

Essence of Dubai

Pulpit
Epitome

Great Majesty

Great Above
Mistic Majesty



シャフリヤール
Shahryar

■生年月日 2018年4月13日
■毛色 黒鹿毛
■生産者 ノーザンファーム(安平)
■馬主 (有)サンデーレーシング
■調教師 藤原英昭(栗東)
■戦績 18戦4勝(GI2勝、GIII1勝)
■総賞金 8億481万9000円+567万ドル+5万3600ポンド
■繋養先 社台スタリオンステーション

種牡馬
になった
名馬たち

2

017年の皐月賞をレースレコードで勝利した全兄アルアインとともに兄弟でクラシックレースのレコードタイムを塗り替えて海外GI競走に勝利したのが今回紹介するシャフリヤールだ。日本ドバイ、英国、米国を渡り歩いて獲得した賞金総額は15億円を超え、これは日本調教馬として歴代10位の記録となっている(2024年12月末現在)。

シャフリヤールは父ディープインパクト、母ドバイマジェスティという血統。全兄アルアインが皐月賞を勝った年に同じディープインパクトを配合され、翌年の4月13日に安平町のノーザンファームで生まれている。ノーザンファーム空港牧場での育成を大過なくクリアしたシャフリヤールのデビューは2歳10月の東京・芝1800m戦。単勝2・3倍という1番人気に支持される中、福永祐一騎手(現調教師)を背に好スタートを切って快勝。そこから約4ヶ月の休養を挟み、3歳初戦の共同通信杯はエフフォーリアの前に3着に敗れて初黒星。しかし、中5週で臨んだ3戦目の毎日杯では前半1000m通過が57秒6というハイペースを築いて追走し、直

線で馬場の真ん中を抜け出して1分43秒9のレコード勝ち。その後は皐月賞をパスして日本ダービーへ向かい、先に抜け出した皐月賞馬エフフォーリアをゴール前で計ったようにとらえてハナ差の勝利。2分22秒5のレースレコードで世代の頂点に立っている。キャリア4戦目のダービー制覇は、フサイチコンコルドの3戦目に次いで歴代2番目の最少キャリア記録となった。

ディープインパクト産駒特有の瞬発力と確かな血統背景に更なる可能性を感じ取った陣営は、成長を促すようにゆつくりと間隔を開けながらレースを選び、4歳春シーズンの目標をドバイシーマクラシックと定める。ここでは先行策から早め先頭に立ち、前年の米国芝牡馬チャンピオン・ユビアーをクビ差抑え込んで2つ目のGIタイトルをゲット。この勝利によりロサンゼルスドベストレースホースランキングにおいて7位タイとなる120のレーティングを与えられたが、その後は高い能力を示しながらも勝利の女神に見放されたようなレースを続けてしまう。英国に遠征して果敢に挑んだプリンスオブウェールズは4着。秋シーズンの最大目標であったジャパンカップは、勝ったヴェラアズールと同じ最速タイの

上がりタイムを記録するも0・1秒差2着と惜敗を繰り返した。

5歳の秋シーズンは米国のブリーダーズカップ(以下BC)ターフへ遠征して3着。このレースでは同じディープインパクト産駒の英愛ダービー馬オーギーストロガン、この年の米国芝牡馬チャンピオンに選ばれるアップトゥザマークに先着を許したものの、最後は力強く伸びて日本ダービー馬としての意地を見せた。

6歳シーズンは2年ぶりの勝利を目指してドバイシーマクラシックへ挑んだが2着。一緒に日本から遠征したりバタイアイランドには先着したものの、のちにBCクラシック2度目の制覇を逃げるレベルスロマンスには2馬身届かなかった。

そして、シャフリヤール陣営がラストランとして選んだのは有馬記念。過去68回の歴史の中で1度も勝ち馬を送り出していない16番枠を引いてしまったが、最後の直線で外から脚を伸ばしてハナ差2着。不利な大外枠スタートに加え、勝ったレガレイラとは4キロの斤量差があったことを考えると、勝ちに等しいラストランだったと言えるだろう。

父

はディープインパクト。競走馬として史上2頭目の不敗の三冠馬となり、種牡馬としても不敗の三冠馬を送り出したスーパード

母

ドバイマジェスティは10年の米国チャンピオンズプリンター牝馬。この年のBCフィリー&メアスプリントでは、積極的な先行策から直線入り口で先頭に立って後続を突き放した。レース2日後には米国ファシグティプトン社のミックスセールに上場され、110万ドルで吉田勝巳氏によって購入されて日本の地を踏んでいる。その3番仔

血

統背景はもちろん、戦ってきた相手やレースの格などにも申し分ないシャフリヤール。5度にわたる海外遠征含め、その生涯を通して大きく崩れたことがほとんどないという堅実性も種牡馬としてのセールのポイントになりそう。社台スタリオンステーション到着

アルアインが皐月賞、6番仔シャフリヤールが日本ダービーを制したほか、2番仔ジュベルアリは繁殖牝馬としてアルナシーム(中京記念、中山金杯を送り出すなど、その血は日本で大きく花開いた。

時には若々しさを失わない美しい馬体と、ディープインパクトから受け継いだ究極の軽さを具現化させたような脚捌きを惜しげもなく披露した。ディープインパクト晩年の傑作と呼ぶに相応しい1頭だろう。スタッフインのタイミンが遅れて後手を踏んだが、初年度の種付け料が発表されると申し込みが殺到。24年にチャンピオンサイアーとなったキズナ、そして産駒デビューが間もないコントレイルとともに、ディープインパクト系を大きく発展させる種牡馬となってくれるはずだ。